

2014年

4月

中国四国農政局
高松地域センター

News Letter

(ももの花)

動物大好き。非農家から就農 ～桑島春佳さん～



笑顔が元気の秘訣！

☆2万4千羽の親鳥？

「ポンポンポンッ」と手をたたくと、黄色い毛玉のようなひよこが何百羽もピョピョと走り寄ってきます。

この日2万4千羽のひなが、ここ(有)安藤養鶏場に導入され、桑島春佳さんの忙しい毎日が始まりました。桑島さんの主な仕事は、このヒナの育成・管理です。この養鶏場では、1回あたり約2万羽あまり、年7回の初生ひなの導入があります。ひなが導入されるたびに約30～35日間のエサと水やり、室温調整、鶏舎の清掃などを任されています。

桑島さんはこのひよこたちがかわいくて仕方がない様子。「思わず愛でてしまいたくなります」と笑顔で答えてくれました。

☆動物大好き

桑島さんの実家は非農家で農業とは縁



孵化後2日目のひな

のない環境でしたが、「動物が大好き」と、県立農業経営高校、そして県立農業大学校へと進学。ここ安藤養鶏場は、大学校の研修先でした。

暖房設備の整ったこの鶏舎は、ひなのいる足元付近の温度が33～34℃に設定されています。とはいえ、日々外気温が変化するため、特に冬の寒さ、夏場の暑さ対策はとても気を使うそうです。

勤務は平日8時から17時までですが、「ヒナが入ると目を離せません。土日の出勤や、急な呼び出しもあります。事故なく育て、親鳥のいる農場の鶏舎に移すとほっとします。」と、就農4年目、しっかり仕事をこなしています。

☆がんばれ養鶏女子

安藤社長は、農業実習に来た時の「まじめで手を抜かない。責任感の強い」作業ぶりが印象に残ったと、それは就農した今も変わらず、さらに女性ならではのきめ細やかな気配りも高く評価しています。

農業大学校を卒業して就農しても、なかなか長く続かないというなかで、桑島さんにとって安藤養鶏場での、ひなの育成・管理はまさに天職。今回の取材でも農業・養鶏の楽しさを生き活きと語ってくれました。これからも女子目線を大切にして頑張ってくださいと思います。



職場の安藤養鶏場

感謝の気持ちを伝えるプレゼント ～(有)モリヒロ園芸～



生きたお花の装飾額「ネイチャー・イン・フレーム」

香川県観音寺市高屋町にある「有限会社モリヒロ園芸」は、生きたお花の装飾額「ネイチャー・イン・フレーム」を開発し、今年、「六次産業化・地産地消費」による総合化事業計画の認定を受けました。

同社は、カーネーションやハイビスカス等の鉢花の栽培から卸、販売までを手がけていますが、近年の景気の低迷による消費量の減退や価格の下落、原油価格高騰による生産コストの増加など厳しい状況下での生産となっています。そこで、経営改善を図るとともに地域の活性化につなげるために新商品の開発に取り組みました。

構想に10年を掛けて開発したという「ネイチャー・イン・フレーム」は、本物の鉢花がフレームから飛び出しているユニークなインテリアで、花の背景となる部分にはメッセージや風景写真を入れて楽しむことができます。現在は、商談会への出展や試作品のテスト販売を行っており、インテリアへの関心が高い人、癒しを求める人、オリジナリティの高いプレゼントを送りたいという人などに好評です。

今後は、既存販路である問屋・量販店への販促活動に留まらず、インターネットによる直売への取組や展示会・商談会への出展、県内外の花店やショッピングセンターなどと連携した消費者体験型販促イベントの開催など、積極的なPRに取り組むとしています。

感謝の気持ちを伝えるプレゼントとして、また、自分へのご褒美としてお勧めです。

さぬき富士 ももの里、ももの花が満開

さぬき富士、飯野山の麓、丸亀市飯山地区では、ももの花が満開となりピンクのパッチワークのような景色が広がっています。

同地区は、150戸あまりの農家が100haの園地で年間600tのももを生産する県内一の産地です。4月6日には、さぬき富士桃の里まつり実行委員会の主催で、飯山総合運動公園を中心に「桃の里にこここウォーク」というイベントが開かれました。当日は、ももと桜の花が咲き誇る同地区の「楠見池親水遊歩道」約9kmのウォーキングを楽しもうと、老若男女約400人が参加しました。同実行委員会は、ももが熟れる7月には「桃喰うまつり」として、ももの販売、ももの種飛ばし大会、ももの早食い競争などのイベントを予定しているそうです。



もも園からのさぬき富士

農業者のみなさまへ

経営所得安定対策等の交付申請書の受付を開始しました！
6月30日までに当センターまたは地域農業再生協議会へ提出願います。
お問い合わせ先 高松地域センター：087-831-8185

食べて
応援しよう！
被災地を応援